

野沢スキーは最高に愉快だ!! (2011 スキー合宿総括)

11期 青柳 健二

今冬は、昨夏の記録的猛暑の反動で、北陸地方などの雪国は久しぶりに大雪に見舞われました。野沢温泉もタツプリと雪に覆われ、ゲレンデ上部のやまざとゲレンデは3mを超える積雪で、絶好のコンディションでスキー合宿を迎えることとなりました。この為か、今回のスキー合宿は参加申し込み期限の2月6日時点で、参加者が20名に達しました。合宿直前に1名のキャンセルがあり、最終的には19名となりましたが、それでもこれは長き合宿史上の最多記録更新です。参加表明をした後に、諸般の事情により不参加となった方が3名いらっしゃいますから、来年以降は20人台での合宿となりましょう。また、嬉しいのは、金曜日の宿泊者が11名、ゆっくり野沢を楽しむ人が増えてきました。2泊3日がお勧めと言っている幹事として、宿の女将ともども、良い傾向だと思っています。

定宿である「リゾートハウスふるさと」も進歩しています。まず、内湯が温泉となりました。野沢温泉の原泉とは異なるようですが、湯は滑らかで疲れが一層癒されます。そして、宿泊客の半数がオーストラリアからのスキー客という国際化。夏の南半球から、野沢の雪と温泉を楽しみに来ているのですね。家族がカップルで、一週間単位で異国の雪世界をユックリ楽しんでいるようです。中尾の湯でも、愉快にお湯に浸かっていました。夕食は外食としているため、夜に一緒に楽しむ機会はなかったのですが、将来は、我らの夜の宴に招待して、国際交流を図ると面白いでしょう。

さて、スキーは19・20日と晴天のスキー日の中で快適な滑走を楽しむことができました。ただし、これは18日の視界10m弱という荒天の中でのスキーがもたらした結果であることを認識しておくべきです。降雪の翌日のパウダー。何事も、苦あつての快樂なのです。特に19日は、野沢のゲレンデ上部に茂るブナとダケカンバの林が真っ白な樹氷(霧氷)に覆われ、まさしく白銀の世界の中で滑る快感を味わいました。この景色は日本独特のもので、森林限界を超えたところがゲレンデと

なるヨーロッパアルプスでは観られないものです。細い枝に白い雪が付着した森が織り成す雪景色は、まさに日本の冬の美の頂点を観るがごとくです。この10数年、2月の野沢に通っていますが、その中でもナンバー1と言える程の絶景でした。

19日の昼食後は、その絶景の中で、久しぶりに全員でビデオ撮影会を楽しみました。カメラマンは保田さんと小山さん。湯の峰ゲレンデのリフト横、上と下に二人が陣取り、各人が思い思いにシュプールを描くの撮っていきます。お二人は、この日の為に白馬47で撮影の練習をしたとのことですから、かの加藤さんに負けず素敵な映像が撮れているでしょう。白く輝く木々と青空の下でのスキー、モデルとなるスキーヤーの体型と滑りには不安なしとは言えませんが。この時の映像は、保田さんが、皆さんのデジカメ映像とともに編集してDVD化してくれることになっています。どんなDVDとなるか楽しみです。保田さん、どうぞ宜しくお願いいたします。皆さんも、保田さんの呼びかけに答え、デジカメ映像の提供をお願いします。

スキーは、参加者が多いこともあり、ビデオ撮影時を除いて集団滑降方式とはせず、各人が技能と体力に合わせてグループを組むか個人で自由に滑っていただきました。雪の状態が良い時には、専らスカイラインコースを滑る人、土日でもマイゲレンデの様な湯の峰/水無ゲレンデで滑る人、警告・自己責任の標識が出ているやまざとゲレンデのリフト下を滑り悦にいつている人、一眼デジカメを持ち出し、白銀の絶景を必死にカメラに収めようとする人など、それぞれが野沢の雪と思うままに遊んだのでした。さぞ「感動を掴み取った」でしょう。

もう一つの合宿の楽しみ「野沢の宴」は、例年どおりASAGIRI(部屋名はローマ字表示あり)で行いました。まず若手の代表松下さんが、「ツールド能登400km参戦記」を報告、そして初参加の吉野さんが、カナダ・ウィスラースキーとヨーロッパ(スイス・オーストリア・イギリス)ハイキングの報告を、さらに佐藤さんの「名古屋-金沢さくら道270kmウルトラマラソン」と「白山神駈道登山(美濃禅定道-加賀禅定道走破)」の報告をされました。

プロジェクターで映像を写しながらの名演で、時に入るOB連との質疑応答も楽しく、元気と勇気と愛を与えられたのでした。

松下さんは、日本と世界の半島を制覇する夢を語りました。吉野さんの写真には必ず奥様が写っており、スキーやハイキングとともに愛を育てていた様子を知りました。そして、佐藤さんの古希を前にされての快挙には、「継続は力なり」「夢は実現できる」と教えられたのでした。

最後は、今年年女となる舟田さんが、百名山完登達成時の加賀友禅染の垂れ幕を披露し、前週に行なった「ピオレドール(黄金のピッケル)賞を受賞した登山家谷口けい講演会」の様子を語り、「自分自身の限界への挑戦が永遠のテーマ」という彼女自身にも重なる心意気を語ってくれました。まさに「夢は実現させるもの」なのです。

舟田さん良かったね。時は経ち、宴は田村さんが音頭をとる「南下軍の歌」の合唱で閉じたのでした。

宴の中では、田村さんと松下さんによるサイエンス討論「リーマン予想」が行なわれ、車座でお酒を飲めば、野村さんの「ガン研究への道程」、Y野村さんの「郡是(ゲンゼ)での体験と地域文化論」などが聞ける、野沢のスキー合宿は、脳細胞を刺激する楽しい場であることを再発見しました。こんな愉快的な語らいが出来る幸せを、タップリ味わった夜なのでした。

今年も楽しいスキー合宿でした。長野冬季オリンピックが行なわれた1998年3月に、創部40年のプレ行事として始まったこの合宿は、13年の年を経て、今回が第14回となっています。良く続いてきました。今年は19名の方が参加されました。幹事として嬉しいのは、リピート率の高さです。合宿に参加して、楽しかったと、また次の年も参加する。今年は、東京から四国に戻った高田さんが、四国から飛行機と新幹線を乗り継ぎ参加されました。すこし休んでいた小山さんも復活して参加され、ビデオ撮影に活躍されました本当に嬉しいことです。そして、少しずつですが、参加者の輪も広がってきています。今年は、10期の吉野さんが初参加。参加表明をしながら、都合により不参加となった9期吉田さん、21期石田さんも初参加組でした。お二人は、来年はきっと参加されましょから、また楽しさが広がりますね。

今年は、北陸の人達は雪かきで大変でしたが、お陰様で質・量とも最高の状態でスキーを楽しむことが出来ました。そして、本物の温泉と美味しい料理、お酒と抹茶などを味わいながらの愉快的な歓談。毎年こんな素敵な時を持てるのは、本当に贅沢なことです。

参加した方々全員の名前を記してお礼を申しあげるのは控えさせていただきますが、今年も皆様から温かいご支援とご協力をたまわりました。どうも有難うございました。

では、また来シーズンも、野沢で会いましょう！ 雪と遊ぼう！ 感動を掴み取れ！

